

SCHEDULE

東京都写真美術館 展覧会スケジュール

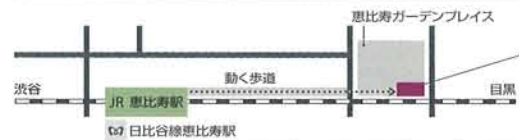
2006	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
8	 世界報道写真50周年記念展 絶望と希望の半世紀 7月22日(土)～9月10日(日)	 中村征夫写真展 8月5日(土)～9月18日(月・祝)	イザベル・ユベール展 7月1日(土)～8月6日(日)	 バトリス・ルコントの DOGORA 8月26日(土)～
9	 HASHI (橋村奉臣) 展 9月16日(土)～10月29日(日)	 石内都:mother's 9月23日(土・祝)～11月5日(日)	ポスト・デジグラフィ 8月12日(土)～10月15日(日)	パッセンジャー 10月ロードショー
10	 HASHI (橋村奉臣) 展 9月16日(土)～10月29日(日)	 石内都:mother's 9月23日(土・祝)～11月5日(日)	バラレル・ニッポン -現代日本建築展1996-2006- 10月21日(土)～12月3日(日)	ニキフォル 知られざる天才画家の肖像 11月ロードショー
11	 コラージュと フォト・モンタージュ展 11月3日(金・祝)～12月17日(日)	写真新世紀展2006 11月11日(土)～12月3日(日)	第4回 日本写真作家協会公募展 12月9日(土)～12月24日(日)	エヴリディ・ラヴァーズ(仮) 新春ロードショー
12	 マンレイ「ポットとりんご」 1931年 gip 光と影 12月23日(土・祝)～2月18日(日)	細江英公:写真の世界 12月9日(土)～1月28日(日)	日本の新進作家 vol.5 地球(ほし)の旅人 1月2日(火)～2月18日(日)	※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。
12月29日～1月1日	文化メディア芸術祭 2月23日(金)～3月4日(日)			

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)・年末年始(12/29～1/1)、ただし9/19(火)は臨時開館します
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。




東京都写真美術館

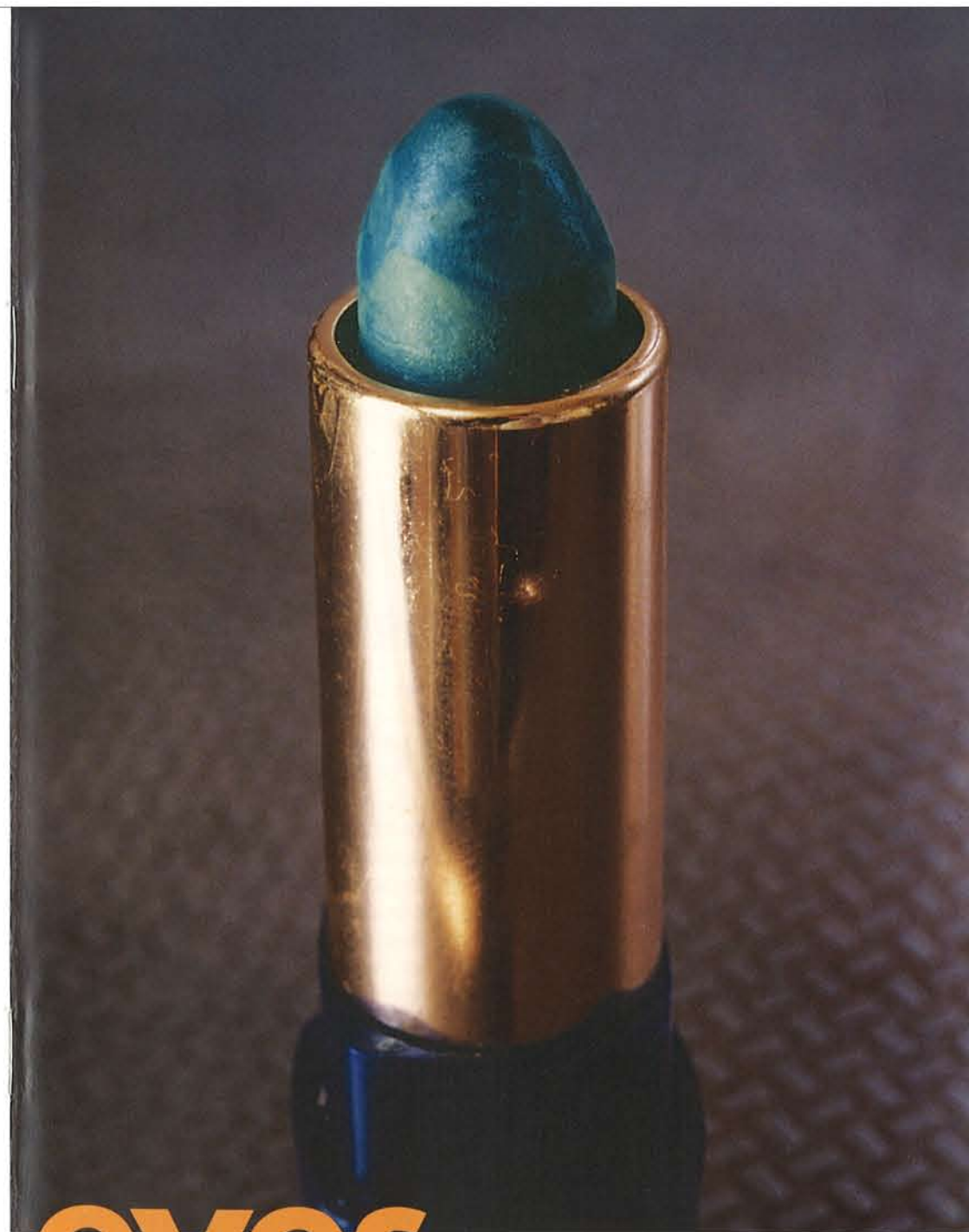
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel.03-3280-0099 / Fax.03-3280-0033

<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ06」51号 ●発行日:2006年8月11日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 ●印刷・製本: JTB印刷株式会社 ●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2006 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。 



eyes

東京都写真美術館ニュース
[アイズ]

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE 2006

51



*01

作家インタビュー

石内都: mother's

東京都写真美術館では、昨年のヴェネツィア・ビエンナーレ日本館で多くの人々の心を揺さぶった、あの「mother's」を完全版でご紹介いたします。今回は作家の石内都さんに本展への思いなどを語って頂きました。



もう1年前のことになりますが、昨年の6~11月に個展を開催したヴェネツィア・ビエンナーレでの経験は、私にとって非常に大きな収穫でもありました。

世界各国から数多くの作品が集まるヴェネツィア・ビエンナーレでは、ひとつのパビリオン内での鑑賞者の滞在時間が短いといわれています。そのなかで、私の写真の前で足を止めてくださる方が多かったことには正直いって驚きました。なかには涙を流してじっと作品を見つめている方もいらっしゃいましたね。

個人的な問題から出発した「mother's」というテーマですが、こうしてみると母と娘の関係というのは世界中で抱

えている普遍的な問題のようです。ヴェネツィア・ビエンナーレでは、そんなことも改めて実感させられました。

そもそも、私が「mother's」の原点ともいえる母の皮膚を撮り始めたのは6年前。母が84歳を迎えた日でもありました。その頃、岡本太郎美術館で震災にまつわる作品を発表することになったため、関東大震災、阪神淡路大震災をキーワードに、どちらも世代的に経験している母の火傷の痕を撮り始めたんです。ところがその後、半年も経たない間に母は入院、余命2ヵ月と宣告されました。その時に撮った写真が皮膚と手や足です。

12月の半ばに母が亡くなり、とりあえず年賀状の欠礼をご案内させていただかなくては・・・と、母の写真はハガキにプリントして送りました。「mother's」の冒頭にある、アメリカ製大型車の横で微笑む若かりし頃の母の写真です。そうしたら、森山大道さんからすぐにお返事が届いて、その写真の解説が細部にわたって書かれていたんですよ。100枚もプリントしたのに、私はそこまで写真を見ていなかった。それは同時に母のことを知らなかったということにも値する



*02



*03



*04

んじゃないかと思いました。それに加え、母が残っていた生々しい遺品のやり場にも戸惑いを感じていました。タンスを開ければ母が着ていたシュミーズやガードルがたくさん出てくる。口紅、髪など直接、母が肌にまとったもので、肉体はもうどこにもないけれど、それを着た母の皮膚はいっぱい詰まっているんです。人にあげるには粗末なものだし、私が着るわけにもいかない。でも、捨てることはできない。悩んだ末、写真を撮っておけば、捨てられるかもしれないと思って遺品に向き合い始めたんです。

遺品を撮影するというのは、ある種、対話みたいなもの。でも、当然ながら対話をしたくても相手は喋ってはくれませんから、「きっと、母だったらこんなふうに答えるかな」と、イメージしながら撮っていきました。撮影は条件が揃っていたのがキッチンだったのでそこを撮影場所を選びましたが、いま考えてみれば、そこは母がいた場所だったのです。

今回の展覧会では、ヴェネツィアで発表できなかった写



*05

真作品3点と新作の映像作品を含め、「mother's」完全版としてご紹介しようと思っています。母の遺品から出発した作品ですが、ヴェネツィア・ビエンナーレなどの展示を経て、作品自体がどんどん私の手を離れていって、いまでは自立してきていると感じています。今回はヴェネツィアから戻ってきて初の個展ということもあり、私自身の客観性も含めてどんなものを発見できるかが非常に楽しみでもあります。私の展示の特徴は、写真の枚数が少なめで作品のサイズもまちまちなんですね。ですから、観客の方々には作品に近寄ってみたり、離れてみたりと、作品と自分の間の空間の変化も感じながら観ていただきたいです。

やはり、写真というのは空間にすぐ左右されるものですから、そこを大切にしたいと思っています。ですから、いまも居間やトイレに展示室の平面図を貼ってプランを考えていますよ(笑)。皆さんがこれまでご覧になられたことのないような空間を作ろうと思っています。

東京都写真美術館の展示室には大きな柱が2本ありますから、そこをうまく利用したいと思っていますので楽しみに。そして、展覧会を作り上げるのは美術館と作家だけではなく、見ていただく方々にも大きな役割があります。たくさんの方々から何かを感じ取ってもらえれば嬉しいですね。

*表紙 mother's #39 2002年
*01 mother's #52 2003年
*02 mother's #19 2001年
*03 mother's #3 2000年
*04 mother's #54 2002年
*05 mother's #48 2002年

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

9月23日(土)・(祝) → 11月5日(日)

マザーズ
石内都:mother's

ishiuchi miyako:mother's

□ 一般 700 (560) 円 □ 学生 600 (480) 円 □ 中高生・65歳以上 500 (400) 円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社/国際交流基金
○協賛：アサヒビール芸術文化財団/財団法人石橋財団/株式会社資生堂/株式会社東北新社/凸版印刷株式会社/
株式会社ニコン/富士フィルムイメージング株式会社/株式会社フコク
○協力：近藤酒造/株式会社カシマ/フォトグラフィアーズ・ラボラトリー

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



mother's #49 2002年

○ 記念講演会

講師：石内都(写真家)×鷺田清一(大阪大学大学院文学研究科教授)×笠原美智子(第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、東京都写真美術館事業企画課長)
日時：2006年10月1日(日) 15時~17時
場所：1階ホール 定員：190名(先着順) 聴講無料

○ 担当学芸員による展示解説

会期中の第2・4金曜日午後2時より展示解説を行います。

東京都写真美術館では、昨年第51回を迎えたヴェネツィア・ビエンナーレに参加し、日本館で催された展覧会の凱旋を記念して、「石内都:mother's」展を開催いたします。

石内都は「絶唱・横須賀ストーリー」や「APARTMENT」で注目され、79年、第4回木村伊兵衛賞を受賞し、その後、ニューヨーク近代美術館等に作品が収蔵、国内外で展覧会が開催されるなど国際的に活躍する日本を代表する写真家です。本年は「日本写真協会賞作家賞」も受賞いたしました。

「mother's」と題された作品は、石内都が波乱の半生を背負った「母」をひとりの「女」としてとらえ、身につけていた衣類や、遺品などから織りなされるシリーズです。使いかけの口紅、髪の毛のついた櫛、入れ歯や鬘、肌の表面のクローズアップ…。母が遺した様々な「もの」を丁寧にみることによって、彼女は確執が深かったという母との関係を静かに見つめ、「想像以上の悲しみ」を噛み締めるように確認しています。84歳の生を生き抜いた一人の自立した現代女性に捧げたオマージュです。現代美術が現代の社会を反映し、半歩先の未来を予感させるものだとしたら、日本を代表する石内都の作品は、変化の著しい現代日本女性の意識を扱った、優れた作品であるといえるでしょう。未発表作と新作の映像作品も加えた「mother's」完全版を、是非、ご高覧ください。



「石内都:mother's」 in ヴェネツィア・ビエンナーレ

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

8月5日(土) → 9月18日(月)・(祝)

なかむら いくお
中村征夫写真展 「海中2万7000時間の旅」
Ikuo Nakamura Photographic Exhibition

□ 一般 800 (640) 円 □ 学生 700 (560) 円 □ 中高生・65歳以上 600 (480) 円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会
○協賛：セイコーエプソン株式会社/株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社/富士写真フイルム株式会社/富士フイルムイメージング株式会社/
花王株式会社
○協力：光村印刷株式会社/サントリー株式会社/株式会社写真弘社/株式会社講談社/有限会社イマジン・アートプランニング

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

わが国を代表する水中写真家、中村征夫の40年以上に及ぶ作家生活の中から厳選した代表作品に、最新の撮り下ろし作品を加えた約200点を展覧する写真展「海中2万7000時間の旅」を開催します。今から約38億年前に最初の生命が誕生して以来、大いなる海は常に生命進化の舞台となってきました。計り知れない美しさと神秘に魅了された中村は、東京湾をはじめ世界中の海に生息する多様な生き物たちの命の輝きをフィルムに刻み続けています。「母なる海」の偉大さを、作品を通じて感じてください。



卵に息を吹きかけて成長を促すカクレクマノミ
座間味島、沖縄 1998年8月

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

7月22日(土) → 9月10日(日)

世界報道写真50周年記念展 「絶望と希望の半世紀」

□ 一般 700 (560) 円 □ 学生 600 (480) 円 □ 中高生・65歳以上 400 (320) 円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社/世界報道写真財団
○後援：オランダ大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会
○協賛：キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/TNT
○協力：ウェスティンホテル東京/文化堂印刷株式会社 HBP700

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

アンリ・カルティエ・ブレッソン、リチャード・アバド、ヘルムート・ニュートン、セバスチャン・サルガド…。写真家が活躍し、メディアの力が大きな影響力を持っていたこの50年、新聞や雑誌では、きら星のごとく著名な写真家たちが誌面を飾り、社会現象や科学の進歩、娯楽など、様々な場面を、写真を通じて語ってきました。そこにはベトナム戦争に多大な影響を与えた「ライフ」誌などの特集や、学生運動、時にはロックスター、そしてエイズが写真とストーリーで掲載され、世の中に拡がっていきました。本展では、貴重な誌面や写真から、写真家たちによってえぐり出された絶望と対面するとともに、人類の希望を映し出した映像も発見できることでしょう。



セバスチャン・サルガド ©Sebastião Salgado 1985
東京都写真美術館蔵 「リベラシオン」1985年
4月16日掲載作品

B1F 地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

8月12日(土) → 10月15日(日)
※9月19日(火)は臨時開館いたします

POSTDIGRAPHY

「ポスト・デジグラフィ」

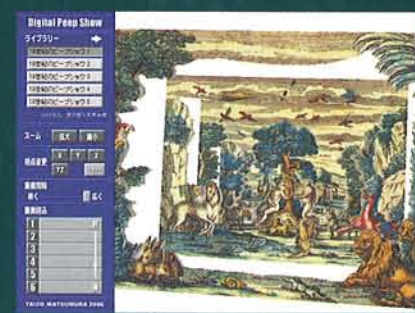
□ 一般 500 (400) 円 □ 学生 400 (320) 円 □ 中高生・65歳以上 300 (240) 円
()は20名以上の団体および上記カード会員割引 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都/財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ○後援：文化庁 ○企画協力：(財)CG-ARTS協会/株式会社NHKエンタープライズ
○協力：ACM SIGGRAPH/アルスエレクトロニカ・センター/川崎市市民ミュージアム/長崎県美術館/株式会社ポリゴンピクチャーズ/
ソニーマーケティング株式会社/3Dコンソーシアム/シリコンスタジオ株式会社/株式会社フoton/凸版印刷株式会社/
株式会社キャドセンター/ERATO 合原複雑数値モデルプロジェクト/ロレアル アーソ アンド サイエンس ファンデーション/
新薬師寺/ルーヴル美術館/トリオンサイト企業組合/日本ビューレット・パッカード株式会社 ○助成：花王芸術・科学財団
○研究助成：Asian Cultural Council キュレーター交流プログラム
平成18年度埼玉大学重点研究「ヒューマンインタラクションの解明に基づく人間支援の脱領域的研究」

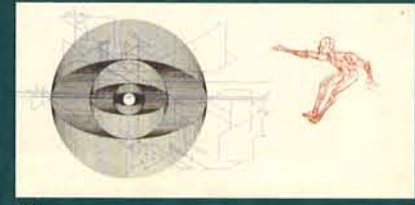
詳細ホームページ：<http://www.syabi.com/details/digigraphy.html>

東京都写真美術館では、「フィルムとデジタル」や「デジタルコンテンツ」をテーマに「ポスト・デジグラフィ」展を開催いたします。今日、CG(コンピュータグラフィックス)やデジタル表現・技術は映画やテレビによってすっかり身近になりました。本展では、1960年代から国際的な評価を受けていた日本のデジタル表現から、80年代の裾がりを経て現在にいたる「ポスト・デジタル(デジタル以降)」の

動向を探ります。また、歴史的資料や書籍、先駆的な展示やブックデザイン、コンパクト化する高精細画像の展示に加え、SIGGRAPHなど国際的フェスティバルの現代作品上映、トークや楽しい体験型ワークショップを行います。「デジタル」「アナログ」の二項対立ではない「デジグラフィ」とは何か、海外からの視点や日本独自の表現・知覚の姿を考える試みです。



*01



*02



*03



*04



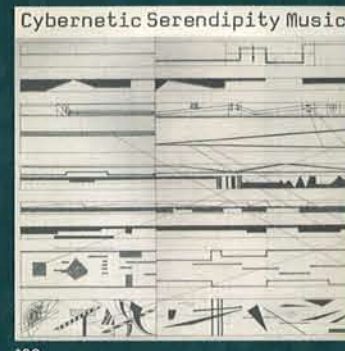
*05



*06



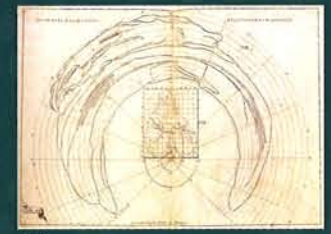
*07



*08



*09



*10



*11

イベントインフォメーション

会期中にワークショップや上映・トークを行います。ふるってご参加ください。
※日程/内容の詳細・最新版はホームページにてご確認ください。

■ カフェトーク
ゲスト:飯沢耕太郎
(写真評論家)+
minim++(近森
基十久納鏡子)
2006年9月23日(土・祝)
14:00~16:00

■ ギャラリートーク
ゲスト:森岡祥倫(美術評論家)/岩井俊
雄(メディアアーティスト)ほか・予定
A:2006年10月7日(土)/B:10月8日(日)
両日とも14:00~16:00(定員20名・先着順)
※ABは独立した別プログラムです。展覧会
観覧券をお求めの上ご参加ください。

■ 作品上映
「日本/世界のデジタル表現」
展示の関連上映として、国内外のすぐれたデジ
タル表現作品群を連続上映します。
2006年9月19日(火・臨時開館)12:00~18:00
(1階ホール・定員190名・先着順)
※展覧会観覧券をお求めの上、ご参加ください。

■ シンポジウム
「日本から世界へデジタル表現のゆくえ」
ゲスト:ヤシャ・ライハート(「サイバネティック・セレンディピティ」展
キュレーター)/リンダーラウロ・ロズン(SIGGRAPH2005
議長)/クリスティアーネ・ポール(ホイットニー美術館キュ
レーター)ほか・予定
2006年9月18日(月・祝)19:00~(1階ホール・定員190名・先着
順)※展覧会観覧券をお求めの上、ご参加ください。

■ 「DPS(デジタル・ピープショウ)ワークショップ」
※デジタルな3Dのぞきからくり制作
講師:松村泰三(アーティスト)
2006年9月9日(土)14:00~16:00

■ ワークショップ「アスキーアート・ワークショップ」
※携帯を使ったアスキーアートのライブ型ワークショップ
講師:永原康史(グラフィックデザイナー)
2006年9月10日(日)14:00~16:00

- *01 松村泰三「Digital Peep Show」2006年・作家蔵
- *02 「「サイバネティック・セレンディピティ」展資料」1968年・川崎市市民ミュージアム蔵
- *03 木本圭子「Imaginary Numbers」2006年・作家蔵
- *04 森村泰昌「Mother (Judith II)」1991年
- *05 山上浩二「Mamegal」2002年・作家蔵
- *06 日本国際博覧会(愛知万博)瀬戸日本館「日本の知恵、技、こころ」2005年 協力:株式会社アサツキ ディ・ケイ 共同制作:石井洋二&森野和馬
- *07 河川洋一郎「Gemotion Dance in eAT全沢」2003年・作家蔵
- *08 「サイバネティック・セレンディピティ・ミュージック」1968年・川崎市市民ミュージアム蔵
- *09 岩井俊雄「マッシュロスコープ」展示風景 2002年・作家蔵
- *10 ジャン＝フランソワ・ニスロン「奇妙な遠近法」より「パオラの聖フランチェスコ」1638年
- *11 山川晃・安戸幸次郎「OH HISSE」第11回学生CGコンテスト受賞作品集より

※所載表記のない作品は東京都写真美術館蔵です。
※ここに掲載された作品はすべて参考図版です。会期中に小規模展示替えを行います。予めご了承ください。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE VOL.51

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE VOL.51

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

9月16日(土) → 10月29日(日)
※9月19日(火)は臨時開館いたします

HASHI(橋村奉臣)展

『一瞬の永遠』&『未来の原風景』

□ 一般 800(640)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：日本経済新聞社/HASHI展実行委員会
○共催：東京都写真美術館

詳細ホームページ：<http://www.hashi-ten.com>



*01

ニューヨーク在住の写真家・橋村奉臣は、アメリカで「HASHI」の名で呼ばれ、その驚異的な技法で、アメリカの広告写真界において不動の地位を築き上げました。HASHI(橋村奉臣)展『一瞬の永遠』&『未来の原風景』では、2部構成で橋村の今日までの軌跡、ならびに今後の新たな方向性をご紹介します。

橋村は1980年代初めに、超高速のスピードライトで、肉眼では捉え難い瞬間をとらえ、オブジェの移行を永遠の時間のなかに凍結させる技法を「アクション・スティル・ライフ」と名づけ、ニューヨークの広告界で高く評価されました。「一瞬の永遠」ではニューヨークに渡り、写真家として不

◎お問い合わせ≫ ハローダイヤル 03-5777-8600



*02

動の地位を築いた代表作「アクション・スティル・ライフ」と「スティル・ライフ」から約40点を紹介します。「未来の原風景」では、橋村のオリジナル「HASHIGRAPHY」の作品を約50点厳選し、写真と絵画を融合させた作風の中に、「今から千年後、西暦3000年の未来社会で生活する人々の目に、現代がどう見えるか」という橋村のメッセージを探ります。

写真と共に生き、常に新たな挑戦を続ける写真家・橋村奉臣。人生と芸術に対するあくなき好奇心と情熱、鋭い感性によって、時代を追って深みを増していく作品群を、是非、ご堪能ください。

*01 Cheers 喜び 1982年
*02 Romantic, The Street of Ancient Comedy, Paris -黄昏- 1992年

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

11月11日(土) → 12月3日(日)

写真新世紀展2006

New Cosmos of Photography Exhibition 2006

□ 入場無料

○主催：キヤノン株式会社 ○共催：東京都写真美術館

詳細ホームページ：<http://canon.jp/scsa>

キヤノンの文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、新人写真家の発掘・育成・支援を目的に今年で15年目を迎えました。これまでに国内外で活躍するオノデラユキや佐内正史をはじめ多数の写真家を輩出し、いまや新人写真家の登竜門としても認知度の高い公募展です。今年の公募には、昨年を上回る約1400名の応募がありました。本展では、6組の優秀賞・約30組の佳作受賞作品および、昨年グランプリを受賞した小澤亜希子氏の新作をご紹介します。フレッシュで力強い作品の数々をお楽しみください。



2006年度写真新世紀審査会風景



写真新世紀展2005より
2005年度グランプリ受賞者 小澤亜希子氏の展示風景

◎お問い合わせ≫ キヤノン(株)コーポレートコミュニケーションセンター文化支援推進室 写真新世紀事務局 03-5482-3904

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

12月9日(土) → 1月28日(日)
※年末年始休館 12月29日~1月1日

「細江英公:写真の世界」展

The World of Eikoh Hosoe

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および上記カード会員割引 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都写真美術館
○特別協力：清里フォトアートミュージアム ○協賛：フォト・ギャラリー・インターナショナル

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

斬新で衝撃的な作品を次々と世に送り続ける細江英公は、1950年代後半から本格的に写真に取り組み、1960年前後に「10人の眼」展や「VIVO」などでの作家活動を通じて、日本の戦後写真に新たな地平を切り開きました。本展では、初期の作品から1960年代を代表する「おとこと女」や「薔薇刑」、「録聴」、70年代以降を代表する「抱擁」や「ガウディの世界」などシリーズに加えて、これまでの個展では紹介されることなかった「たかちゃんとかく」、「おかあさんのばか」といった写真絵本の展示もいたします。ユニークで豊かな細江英公の写真世界をお楽しみください。



細江英公(薔薇刑#32) 1961年

≫ 10月21日(土) → 12月3日(日)

パラレル・ニッポン —現代日本建築展 1996-2006—

Parallel NIPPON —Contemporary Japanese Architecture 1996-2006

□ 一般 700 (560) 円 □ 学生 600 (480) 円 □ 中高生・65歳以上 500 (400) 円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：独立行政法人国際交流基金／社団法人日本建築学会／財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
 ○後援：外務省(予定)
 ○協力：日本バーチャルリアリティ学会／筑波大学岩田研究室

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

本展覧会は国際交流基金、日本建築学会、東京都写真美術館の協力によって過去10年(1996年～2006年)に竣工した日本を中心とした建築から、代表的な110作品を選び、わが国の社会文化状況と対比させながら展示を行うものです。いわゆるバブル期からポストバブル期という変動の時代にあって、時代の要求を汲み取りながらきめ細やかなデザインを提供してきたわが国の建築界の実像を、視覚的要素(写真/映像)や立体・模型を織り交ぜながら展示します。

拡張を遂げる大都市と少子化問題に悩む地方、世界に向けた大掛かりな文化発信施設に対して地域の児童や高齢者を対象とした小ぶりながら繊細なコミュニティ施設、といった「対比」を軸として組み立てられています。

わが国の社会状況全体を、都市、ライフスタイル、文化という切り口で整理し、この10年間の建築をめぐる取り組みが、どのように社会に貢献し抵触してきたかが理解できる構成となっています。いわゆる建築ジャーナリズムの写真に加えて、東京都写真美術館のコレクションから各時代の「都市と建築」をとらえた写真作品を織り交ぜ、全体を体験型展示として空間構成する予定です。東京展開催後、本展は再構成され今後10年にわたり海外各国を巡回します。

出品予定建築家

青木淳、安藤忠雄、石山修武、磯崎新、伊東豊雄、大谷弘明、黒川紀章、妹島和世+西澤立衛、原広司、坂茂、藤本壮介、Herzog & de Meuron、横文彦、みかんぐみ、宮本佳明、ヨコミジ・マコト ほか



*01



*02



*03

■関連事業 シンポジウム

日時：2006年11月9日(木) 19:00より
 会場：国際交流基金
 詳細：国際交流基金ホームページにて最新情報をご確認ください。
<http://www.jpfa.go.jp/j/>

- *01 プラダ ブティック青山 設計：ジャック・ヘルツォーク／ピエール・ド・ムロン／株式会社竹中工務店設計部 撮影：Nacasa & Partners Inc. (ナカサアンドパートナーズ)
- *02 金沢21世紀美術館 設計：妹島和世+西澤立衛/SANAA
- *03 せんだいメディアテーク 設計：伊東豊雄建築設計事務所 撮影：Nacasa & Partners
- *04 積層の家 設計：大谷弘明 撮影：岡本公二



*04

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

11月3日(金)・(祝) → 12月17日(日)

コラージュとフォト・モンタージュ展

□ 一般 500 (400) 円 □ 学生 400 (320) 円 □ 中高生・65歳以上 250 (200) 円
()は20名以上の団体および上記カード会員割引 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
○協賛：花王株式会社

詳細ホームページ <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

お気に入り広告の写真を切り抜いて画用紙に貼り合わせる。そんな遊びをした経験がありませんか。これはコラージュという美術の技法の一つなのです。17世紀ごろから紙や布、羽や動物の皮などさまざまなものを貼り合わせて作品にするという事は行われていましたが、写真が発明されてからは、コラージュ作品の多くに写真が使われるようになります。写真を組み合わせることで難しい描写を可能にしたり、本来なら同じ画面にあり得ないものを並べることで、新し

いメッセージを生み出したり、超現実的な世界を表現したりすることができます。またコラージュは写真家だけではなく、他の美術の分野の作家にも広く取り入れられました。

本展は写真がコラージュにどの様に利用されてきたのかをたどりながら、その意味や表現の魅力を捉え直す展覧会です。



Part 1 小島柳蛙(りゅうあ)と家族像 小島 柳蛙 1873年頃
この写真の女性は両方も柳蛙の嫁の「とを」。別々の孫を抱いた嫁の姿をまるで別人のように並べています。



Part 1 海景 ギュスターヴ・ル・グレイ 1856~1859年
このころの写真の技術では、波や雲の細かい描写を1回の撮影で表現することは不可能でした。これは空と海が別々に撮影され合成されています。

■担当学芸員による展示解説

会期中の第2・4金曜日午後2時より展示解説を行います。

■カフェトーク(有料・事前申込制)

詳細は決定次第、ホームページで発表します。



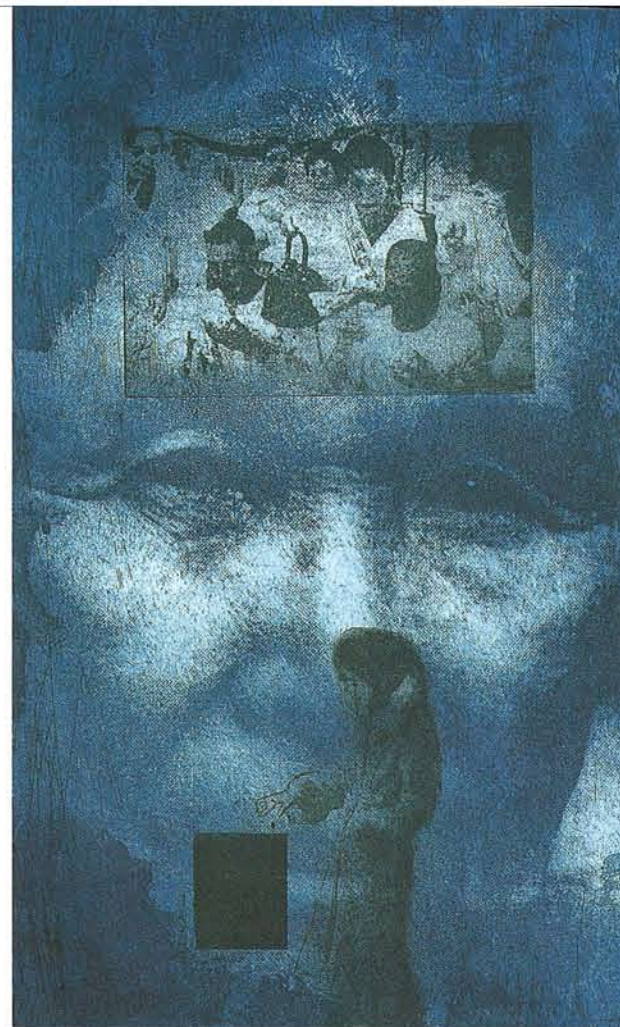
Part 2 レール上の殺人(隣人を受けよ) モホイーナジ 1925年

バウハウスでは、バラバラにした写真を、本来の目的とは異なる使い方をし、イメージが潜在的に含む要素を表に出そうとしました。



Part 2 生命 平井 輝七 1938年

シュルレアリスムでは、現実的なイメージを使う事によって、逆に超現実的な世界へ私たちの知覚を誘い込みます。



Part 3 お茶と同情 嶋田 美子 1995年

元従軍慰安婦の顔の上に、戦時中に結成された大日本婦人会の写真が重なっています。同じ時代に生きた2つの別の女性たちのイメージを重ねることで、今なお解決されていない問題の根深さを私たちに問いかけます。

展覧会の構成

Part 1 写真がコラージュされ始めた時期

写真の黎明期にそのころの写真では技術的に不可能な事を表現するために、合成(コラージュ、フォト・モンタージュ)することにより写真家の意図に沿った、表現として完成度の高い作品をめざしました。

Part 2 20世紀初頭の 前衛美術運動との関係

ダダ、シュルレアリスム、構成主義といった20世紀初頭の前衛美術は様々な美術的な技法を取り入れていますが、特に写真のコラージュ、フォト・モンタージュを使った作品を多く見ることができます。写真を使う事により、作品によりリアルな社会へのメッセージや風刺、超現実性といった要素を作品の中に取り入れていきました。

Part 3 現代美術との関係

現代のコラージュ作品は写真家だけではなく、画家や版画家といった他のメディアの美術家にも使われています。描くと言う行為よりの既存のイメージである写真を使ったり、貼り付けたりする行為によって作品を再構成し、新たな作品を創り出していました。

1F 1階ホール
Hall Cinema Information

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

詳細ホームページ <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

Film Series Vol.25 **パトリス・ルコントのDOGORA**

ルコントが感じた、これまでにない激しい衝動。それは、壮大な音楽と映像によって姿を変えた。『役者がいない、シナリオもない、言葉さえもない...ただ、純粋に感情に訴え、心を揺さぶる映画を作りたいと思っていました。それが『DOGORA』です』(パトリス・ルコント)フランスの音楽家・エティエンヌ・ベルションが生み出した『DOGORA』と、溢れる生命感に圧倒される国・カンボジア。フィクションでもドキュメンタリーでもなく、あるがままの音楽と映像だけで構成された、最も普遍的な感動作。



○上映スケジュール：8月26日(土)～
○上映時間：11:00/12:50/14:40/16:30/18:40
○料金：一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

アルパトロス・フィルム/03-3549-2700/www.albatros-film.com/movie/

Film Series Vol.26 **パッセンジャー**

『CASSHERN』の伊勢谷友介が日仏カナダ合作映画に主演! ただ純粋に愛だけを求めてカナダへと旅立ったコウジ(伊勢谷)とヒロコ(金子)。そこには予想もつかない終焉が待ち構えていた。日仏カナダ合作映画に、あの伊勢谷友介が主演で登場! 監督は写真家として『ザ・フェイス』や『ヴォーグ』誌で活躍していたフランソワ・ロトゲール。叙情あふれる美しい景色を背景に、孤独を抱えながら生きる現代社会のセンチメンタルを浮き彫りにしたロードムービー。



○上映スケジュール：10月ロードショー(2週間限定公開)
○上映時間：未定
○料金：一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

トルネード・フィルム/03-5768-1801/www.tornadofilm.jp/

ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」1F

NADIFF X IO

お問い合わせ:
「ナディッフ バイテン」
直通 03-3280-3279
www.syabi.com/shop/shop.html

Camera

4連写のトイカメラ「バビロン4」に専用水中ケースが登場。ケースにセットすれば水深6メートルまでの撮影が可能。水陸両方のイメージをミックスした写真が楽しめます。ケース ¥2,100(税込) カメラとセット ¥10,500(税込)

カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」1F 2F

chambre claire

お問い合わせ:
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

Beer & Food

世界報道写真50周年記念展、開催期間限定!! ベルギー以外で唯一の元トランプビール「ラ・トラッペ」。オランダのスコースタイ修道院で作られる伝統的な味わいをご紹介します。なくなり次第終了です。ラ・トラッペ 各¥1,000(税込) ローストビーフのオープンサンド ¥800(税込)

維持会員 Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。 ※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/Membership.html>

- 特別維持会員
 - 株式会社アイテム
 - キヤノン株式会社
 - 株式会社資生堂
 - 東京電力株式会社
 - 凸版印刷株式会社
 - 株式会社リコー
- 維持会員
 - 株式会社アサツディ・ケイ
 - 旭化成株式会社
 - 朝日新聞社
 - 朝日生命保険相互会社
 - アサヒビール株式会社
 - 朝日放送株式会社
 - アップルコンピュータ株式会社
 - アデオ株式会社
 - エスエス製薬株式会社
 - 株式会社NHKエデュケーション
 - 株式会社NHKエンタープライズ
 - 株式会社NHKプロモーション
 - NTTコミュニケーションズ株式会社
 - 株式会社NTTデータ
 - 株式会社NTTコム
 - NTT都市開発株式会社
 - エルメスジャパン株式会社
 - 株式会社大塚商会
 - 株式会社大林組
 - 奥村印刷株式会社
 - オムロン株式会社
 - オリックス株式会社
 - オリンパス株式会社
 - 株式会社オンワード樺山
 - 科研製薬株式会社
 - カンオ計算機株式会社
 - 鹿島建設株式会社
 - 株式会社角川書店
 - カトーレック株式会社
 - カルピス株式会社
 - キッコーマン株式会社
 - 株式会社紀伊國屋書店
 - キャノンマーケティングジャパン株式会社
 - 株式会社キューコムコミュニケーションズ
 - 株式会社きょうせい
 - 共同印刷株式会社
 - 社団法人共同通信社
 - 協和醗酵工業株式会社
 - 麒麟ビール株式会社
 - 株式会社調議社
 - 株式会社光文社
 - 株式会社国書刊行会
 - 株式会社コーセー
 - コダック株式会社
 - コニカミノルタホールディングス株式会社
 - 株式会社コンプレ
 - 株式会社ザ・アール
 - サッポロホールディングス株式会社
 - 佐藤製菓株式会社
 - 三共株式会社
 - 産経新聞社
 - サントリー株式会社
 - 株式会社ジェイアール東日本企画
 - ジェイティービー印刷株式会社
 - 株式会社実業之日本社
 - 清水建設株式会社
 - 株式会社写真弘社
 - シャネル株式会社
 - 株式会社集英社
 - 株式会社主婦と生活社
 - 株式会社主婦の友社
 - 朝報社写真印刷株式会社
 - 株式会社小学館
 - 松竹株式会社
 - 信越化学工業株式会社
 - 株式会社新潮社
 - 株式会社スタジオジブリ
 - 株式会社スタッフサービス・ホールディングス
 - 住友化学株式会社
 - 株式会社生活の友社
 - セイコー株式会社
 - 株式会社青春出版社
 - 積水ハウス株式会社
 - 株式会社絶対空間
 - セントラル警備保障株式会社
 - 全日本空輸株式会社
 - ソニー株式会社
 - 第一建築サービス株式会社
 - 第一法規株式会社
 - 大成建設株式会社
 - 大日本印刷株式会社
 - 株式会社竹中工務店
 - 株式会社タムロン
 - 株式会社丹青社
 - 株式会社中央公論新社
 - 中外製薬株式会社
 - 株式会社ディー・エイチ・シー
 - 株式会社テー・オー・ダブリュー
 - 株式会社テレビ朝日
 - 株式会社テレビ東京
 - 電源開発株式会社
 - 株式会社電通
 - 東亜建設工業株式会社
 - 東海旅客鉄道株式会社
 - 東京ガス株式会社
 - 東京急行電鉄株式会社
 - 東京工芸大学
 - 東京新聞・中日新聞社
 - 株式会社東京スタジオ
 - 東京総合写真専門学校
 - 東京テアトル株式会社
 - 株式会社東京ドーム
 - 株式会社東京放送
 - 株式会社東芝
 - 東宝株式会社
 - 株式会社東北新社
 - 株式会社徳間書店
 - 図書印刷株式会社
 - 戸田建設株式会社
 - トヨタ自動車株式会社
 - 株式会社ニコン
 - 日外アソシエーツ株式会社
 - 日産自動車株式会社
 - 株式会社NIPPOコーポレーション
 - 日本オラル株式会社
 - 株式会社日本カメラ社
 - 日本経済新聞社
 - 日本興亜損害保険株式会社
 - 社団法人日本広告写真家協会
 - 日本写真印刷株式会社
 - 社団法人日本写真協会
 - 社団法人日本写真協会
 - 日本写真芸術専門学校
 - 日本写真作家協会
 - 社団法人日本写真文化協会
 - 日本大学芸術学部
 - 日本たばこ産業株式会社
 - 日本テレビ放送網株式会社
 - 日本ハム株式会社
 - 日本ヒューレット・パカード株式会社
 - 株式会社ニッポン放送
 - 日本油脂株式会社
 - 日本ロレックス株式会社
 - 株式会社博報堂
 - びあ株式会社
 - 東日本旅客鉄道株式会社
 - 光写真印刷株式会社
 - 株式会社ファーストリテイリング
 - 株式会社ファンケル
 - 富国生命保険相互会社
 - 富士写真フイルム株式会社
 - 富士重工株式会社(スバル)
 - 富士ゼロックス株式会社
 - 株式会社フジテレビジョン
 - 株式会社扶桑社
 - 株式会社プリンス
 - 株式会社プリンスホテル
 - 株式会社フレムマン
 - 株式会社文藝春秋
 - 株式会社ベネッセコーポレーション
 - バンタックス株式会社
 - 株式会社ホテルオークラ
 - 株式会社堀内カラー
 - 本田技研工業株式会社
 - 毎日新聞社
 - 株式会社マジパンハウス
 - 松下電器産業株式会社
 - 丸善株式会社
 - 三井倉庫株式会社
 - 三菱地所株式会社
 - 武蔵大学
 - 森ビル株式会社
 - モルガン・スタンレー証券株式会社
 - モンブラン ジャパン株式会社
 - ヤマロジスティクス株式会社
 - UFJニコス株式会社
 - ユニバーサル・ジャパン株式会社
 - 横河電機株式会社
 - 読売新聞社
 - ライオン株式会社
 - 株式会社フコール

友の会 Supporter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もご用意。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写真NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ナディッフ本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除品あり) ○ロコ渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など